

# 調査研究活動実績

氏名 依光晃一郎

今年度は、コロナ禍における高知県政について、幅広い視点から調査しました。特に、「ポストコロナ時代の新しい未来像」について、医療体制の整備、情報基盤の強化、働き方改革など、必要不可欠な事柄について調査しました。また、地域の中小企業、小規模事業者が、今後も事業を継続できるように政策立案していくという視点を重視しました。

本年度（2年度）の政務調査研究に関する主な活動の実績は次の通りです。

- 1 コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策について
  - ・PCRの検査体制や医療機関での病床確保という視点
  - ・休業等の要請の成果という視点
  - ・保健衛生用品などの不足に対応するための情報の集約や物資の調達という視点
  
- 2 コロナ禍における経済対策について
  - ・本県経済の回復に向けた道筋という視点
  - ・「新型コロナウイルス感染症対策雇用維持促進特別融資制度」という視点
  - ・旅館・ホテル業、バス事業への支援という視点
  - ・中小企業や地域の事業者などの支援という視点
  
- 3 高知県のデジタル化について
  - ・「ポストコロナ時代の新しい未来像」という視点
  - ・情報通信基盤の整備、維持という視点
  - ・県庁のテレワークという視点
  - ・シェアオフィス拠点施設整備という視点
  - ・人材版ふるさと納税制度による中山間振興と産業振興という視点
  - ・県庁職員のモバイルワーク端末に関する環境整備という視点
  - ・庁内における完全電子決裁化と書類の完全電子化という視点

#### 4 GIGAスクール構想について

- ・教員のICT活用能力の向上と、児童生徒が学習習慣を身に付けるための工夫という視点
- ・若手教員の働きやすい職場整備と、働き方改革という視点

#### 5 Society 5.0と都市計画について

- ・長期未着手道路の見直しという視点
- ・スマートシティへの取り組みという視点
- ・林業におけるオープンデータ活用の実績と活用という視点
- ・農業用水路をデジタル地図で管理し、活用するという視点
- ・高知県デジタル都市計画マップを将来のまちづくりの基礎資料にするという視点

#### 6 ウィズコロナ社会の構築について

- ・専門的な知識を身に付けた医師や看護師による診療体制の確保という視点
- ・ウィズコロナ社会におけるリスク許容のメッセージという視点
- ・「感染症対応の目安」の評価という視点
- ・「感染症対応の目安」の改善という視点
- ・コロナ禍における就職に関するミスマッチの解消という視点
- ・大工の育成に向けた大工技術を生かす機会の確保という視点
- ・データサイエンスの普及という視点
- ・高知工科大学の新学群設置の役割という視点